

---

平成30年度  
ふるさと応援メッセージ全国コンクール  
入賞作品集

ふるさと納税の健全な発展を目指す自治体連合

---

# 入賞作品

## 最優秀賞

しんしよもち . . . . . 山本 彩香 1

## 優秀賞

一緒に頑張ろうね、大好きな福島県 . . . . . 長尾 幸子 2

ふるさとに背中を押されて . . . . . 工藤 愛美 2

税の恩返し . . . . . 小松崎 有美 3

私の新しい「ふるさと」 . . . . . 澤田 由紀 4

我が家の新しいふるさと . . . . . 増澤 正晃 5

## しんしよもち

宮城県仙台市 山本 彩香

祖父の葬儀で知った言葉である。「この辺りでは、新しく所帯をもつことを『しんしよもち』って言うのよ」

三男で宮城県佐沼出身の祖父、岩手県宮古出身の祖母は、ここ岩手県一関市で十八歳にして、しんしよもちとなったらしい。

裸一貫、見ず知らずの土地で会社を立ち上げ、一代にして財を成した。好きな物を、好きな時に買う祖父は耳が早い。

生前、ふるさと納税を尋ねたら、やはり知っていた。さて、どこに寄付をしているか。「佐沼と一関、宮古に決まってる」「えっ、他の自治体だと豪華なお肉とかもらえるらしいよ」「そういうことじゃない。自分とおばあちゃんがずっとお世話になってきたんだから、恩返し」

葬儀ではたくさんの人が参列し、涙を流した。

お酒を注ぎに回るたび、出てくる祖父のエピソード。  
祖父は、ふるさとを愛し、ふるさとに愛されていたのだろう。



## 優秀賞

### 税の恩返し

埼玉県所沢市 小松崎 有美

鶴の恩返し。

私のふるさと、山形県南陽市はこの伝説が伝わる地。幼い頃、私は児童養護施設で育った。最初は寂しかった。おなしかった。何度も泣いた。親を恨んだ。周りを妬んだ。

でも気づくと心はまるく育った。

だってここには母親のような先生がいたから。兄  
弟みたいな友達がいたから。

今の私があるのも、ふるさとのおかげ。

都会に住んでいるが感謝の心はいつもふるさとにある。だから私は寄付をする。

ふるさとへ、私の税の恩返しである。

## 優秀賞

### ふるさとに背中を押されて

大阪府豊中市 工藤 愛美

ふるさとを離れ十年以上が経ったが、ふとした時に思い浮かぶのはふるさとの風景だ。

初めての彼氏とケンカした夜は熱いチャンポンが食べたくなり、面接に向かう日は坂の上に立つ教会の凛とした強さに背中を押され、娘が生まれると透明な海を見せたいと思う。

ふるさとに出来る恩返しは無いかと思ったとき、ふるさとと納税を知った。納税でふるさとを応援する、遠方の私でも力になれることが嬉しい。

次の連休には娘を連れてふるさとへ帰ろう。

私の大好きな風景は娘の目にはどう映るのかな。

## 優 秀 賞

### 一緒に頑張ろうね、大好きな福島県

埼玉県志木市 長尾 幸子

生まれも育ちも埼玉県の私にも『ふるさと』といえる場所が一つあります。それは福島県。大学4年間を福島で過ごしました。初めての一人暮らし、初めてのアルバイト、キラキラした楽しい青春時代を福島で過ごしました。傘を忘れて濡れていたら、知らないおばあさんが「濡れちゃうよ。」と傘に入れてくださり、背が高い私は背が低いおばあさんの温かい優しさに膝を曲げて一緒に雨の中歩きました。アルバイト先では、賄いの時間になると一人暮らしだからといつも沢山食べさせて頂き、一年間で五キロも太ってしまいました。雪の日にスカートでお出かけしていたら知らないお母さんに「寒いでしょ。女の子は身体を冷やしちゃダメよ。」と実家の母のような優しい言葉をかけて頂き、まだまだ子供だった私は、優しく温かい町全体に守られて楽しくて素敵な大学四年間を過ごすことが出来ました。

そんな大好きな町を東日本大震災が襲い、微力ながら私にも何か力になれることがないかと思ってる時にふるさと納税を知りました。社会人になって数年、そんなにお金がなかった私でもこの制度を利用すれば少しは福島に恩返しが出来るかもしれないと早速寄付をしました。

それから数か月後、突然福島から『お礼の品』という箱が届き、その中には食べ頃の桃が詰められています。お礼の品の存在を知らず、ただただその気持ちがとてもうれしく、家族でとても美味しくその桃を頂きました。

私にとって福島は大好きな『ふるさと』です。これからもずっとずっと応援していきます。

一緒に頑張ろうね、大好きな福島県。

私の新しい「ふるさと」

兵庫県姫路市 澤田 由紀

進学・就職も実家の近く、結婚も実家の近く、親戚も皆近くに住んでいるという環境で暮らしてきた私にとって、今住んでいるところ以外に、「ふるさと」と思えるような特別な存在の自治体はありませんでした。

そういう状況ですので、ふるさと納税に対する一番の関心事はもっぱら「返礼品」。そのため、どの自治体に納税したのかも毎年忘れてしまうような状態でした。

ところがある日、以前ふるさと納税をした、関東地方のある自治体から、西日本豪雨の被害を心配してくださった、とても丁寧なお見舞いのお手紙と野菜が届いたのです。

幸い私の住んでいるところは被害を免れたのですが、心配してくださったそのお気持ちがとてもうれしくて、まるで私のふるさとから届いたかのような気持ちになり、涙が出ました。

「こんなにも温かい、心の通った政治をされている

自治体はどんなところなのだろう」と、恥ずかしながら初めてその自治体についてネットで調べました。人口、産業、観光・・・と調べているうちに、とても親近感がわいてきて、「一度行ってみたいなあ」、「これからも私のふるさととして、応援し続けたいなあ」という気持ちになりました。

そして、「こんなにも温かい気持ちを頂いたのだから、私も同じように誰かの支えになりたい」と思い、ふるさと納税サイトの、「災害支援」というところから、災害被災地への義援金としていくつかの自治体に納税しました。

本来ふるさと納税とは、「この自治体を応援したい」という気持ちが一番にこなければいけないのだと改めて気づかされた出来事でした。

返礼品、自分の出身地・・・と、きっかけはどうであれ、「応援したいなあ」、「行ってみたいなあ」という、自分にとっての「ふるさと」を日本全国につくることができるとして、そのふるさとと心をつなげることが出来るツールとして、「ふるさと納税」の制度は本当に素晴らしい制度だと思えます。

日本全国の人たちが様々な形で様々な地域の人たちとつながることができれば、とてもすてきななあと思えました。

我が家の新しいふるさと…ふくい

千葉県船橋市 増澤 正晃

子供が恐竜を好きになるのは何故だろう。きっとその理由の一つには絞れないに違いない。大きく強く、恐くて不思議で、事実でありながらロマンティック：おそらく全てが魅力を発しているのだから。

我が家も二人の男の子の興味の強さが、二年続けて恐竜博物館を訪ねる原動力になった。子供に導かれる形で、二億年の時を遡り想像の世界を彷徨うこと、山海の恵みを味わうこと、さらにハイテクな列車での移動をも楽しむことが出来た。

素敵な対象がより良くなってほしい、という気持ちの現れが「ふるさと納税」なのだと思う。帰省先がなかった我が家の新しいふるさと、福井県と恐竜博物館にはこれからもメールを送るつもりである。

